



玉川学園の校章は1929年3月、創立者である小原國芳と塾生らにより定められた。さまざまな案が出されるなか、「水玉に川」という小原國芳の言葉をもとに、塾生の一人がコンパスと定規を使い描いたところ、「意外にも簡単に」意見の一致をみたという。このシンフルなマークは小学校の児童でも簡単に描けるように意図され、3本の縦棒は「真・善・美」「子・教・師・親」を表しているといわれる。色は、玉川の水をイメージした紺色。創立以来のメインカラーとして、知性と誠実を表すこの色を「玉川ブルー」と呼んでいる。

校章について

玉川新聞

平成 26 年 (2014)

4 | 8 [火]

玉川新聞 (タマガワ)
THE TAMAGAWA SHIMBUN
〈企画・制作〉産経新聞社営業局

この紙面はことし創立85周年を迎えた玉川学園・玉川大学のPR企画として掲載しています。

お問い合わせ
教育企画部キャンパスインフォメーションセンター
TEL 042-739-8710

85th
Anniversary
Tamagawa
1929 ~ 2014

グローバル化の時代、先を行く教育環境

85周年を迎えた玉川学園・玉川大学

東京都町田市の伝統校、玉川学園・玉川大学は今年、創立85周年を迎えた。61万平方メートルの広大なキャンパスに、幼稚園から高等学校(12年生)、大学、大学院まで、約1万人が学ぶ総合学園として発展を続けている。学園の理事長・学長・学園長の小原芳明氏に、85周年を機とした動きや、未来に向けての抱負を聞いた。

グローバル社会で役立つ教育

「大学教育の基本は、知識の伝承」です。この85周年を、基本がおろそかになつていないかチェックする機会としてさらに前進したい」と、小原学長は固く決意する。創立から85年を経て、当初とは世の中自体が大きく変わった。「社会とともに、大学に求められるものも変化している。今の時代にどう対応していくか」

例えばEUI統合や、TTP交渉といった世界の動きを見ても、現在では1国単位の経済が成り立たないのは明らかだ。「社会の担い手を輩出することが大学の役割だ」とすれば、社会の変化に対応できる人材の育成が求められる」と話す。では、政治や社会の枠組みがグローバル化した今、活躍できる人材像とは。「求められるのはまず語学力。玉川大学では、日本語と英語のバイリンガル能力を重視しています」と小原学長は言う。その中心となるのは、2012年度から導入した「ELF(エ

ルフ)プログラム」だ。ELFとは「国際共通語としての英語」(English as a Lingua Franca)を意味している。

「これまでの英語教育の目標は、ネイティブ並みの英語の修得でした。ところが、全世界の英語話者のうち、英語を母語とする人は2割ほど。むしろ非英語圏の人びとの交渉の場面で、共通言語として使える英語を身に付けることが大切なのです」。ELFプログラムでは、9の国籍、10の母語の教員が指導に当たっており、世界の多様な文化を身近に感じながら学ぶことができる。

「求められるのはまず語学力。玉川大学では、日本語と英語のバイリンガル能力を重視しています」と小原学長は言う。その中心となるのは、2012年度から導入した「ELF(エルフ)プログラム」だ。ELFとは「国際共通語としての英語」(English as a Lingua Franca)を意味している。

最新の英語教育「ELFプログラム」

充実した学びを約束する環境

いま、大学教育における「質保証」の仕組みづくりが注目されている。小原学長は「学校の質の大きな尺度は、学力や『何ができるか』という能力。玉川大学は、卒業するまでのプロセス管理をしっかりとし、質の保証を図っていきます」と語る。

具体的には、欧米で一般的なGPA(科目成績平均値)制度を早くから取り入れた。各科目の成績をポイント化し、各年次の基準に達しなければ進級できない。学生はただ単位を履修するだけでなく、科目を絞って深く学習する「修得主義」へと転換しなければならない。

さらに1セメスター(半期)の履修単位は16単位を上限とするCAP制度を導入。予習・復習を含め週48時間の学習を前提に、単位の質を向上させている。玉川大学は、こうした制度・カリキュラムといったソフト面のみならず、施設などハード面でも時代の先

「教員養成の玉川大学」

小原学長が「将来の日本社会にとって逃げることはできない課題」と話すが、教員養成だ。多様化が進む小・中・高校のカリキュラムに対応するために、今の学校現場では、従来とは違うノウハウを持った教員が

を行く。なかでも今年完成予定の新しい図書館は、最先端の工夫が凝らされ、他大学からも注目されているという。

「図書館はいつの時代も大学の象徴ですが、多メディア化のなか、単に本を集めるだけでは役割を果たせません。より広義の『知が集積する場』として捉え直し、知識を伝達するさまざまな手段を統合すべく構想しました。最新機能を備えたこの図書館は、85万冊収蔵の自動書庫を完備し、100万冊規模のICタックを導入、免震・水・熱・風に配慮した技術を使用、カフェ・レストランを併設、そして学び、探求し、討議しあう場として「ラーニング・コモンズ」を実現する。

「これまで活用できるこの図書館は、多様な学びの場となります。学習のスタイルが変わり、学生の力につながるはず」と小原学長は新時代の「知の拠点」に期待を込める。

「小学校の科目に英語が加わりましたが、英語を教えるというのは多くの先生にとって大変なこと。また小学生的な『理数離れが進むなか、文系出身が多いこれまでの教育現場で

求められている。

「小学校の科目に英語が加わりましたが、英語を教えるというのは多くの先生にとって大変なこと。また小学生的な『理数離れが進むなか、文系出身が多いこれまでの教育現場で

2015年4月 最新機能を備えた図書館誕生

玉川学園・玉川大学の組織

玉川学園は、創立者・小原國芳氏が1929年(昭和4年)に開校。生徒111人、教職員18人で始まった学園は、現在では幼稚園から大学院まで約1万人が集う、一貫教育の総合学園となっている。大学は8学部16学科と大学院が1つのキャンパスに集まる総合大学で、緑豊かな環境のなか、時代と社会が求める高い専門性を身に付けることが可能。2011年には質保証をキーワードとした「Tamagawa Vision 2020」を発表、未来を見据えさらなる発展を目指している。

玉川大学	大学院<6研究科>
	芸術専攻科(芸術専攻)
	文学部
	農学部
	工学部
	経営学部
	教育学部
	芸術学部
	リベラルアーツ学部
	観光学部
玉川学園	通信教育部
	1年生~12年生(小・中・高)
玉川学園	幼稚園



玉川学園・玉川大学 理事長・学長・学園長 小原 芳明氏

おばら・よしあき ● 1946(昭和21)年東京生まれ。米マンマス大卒、米スタンフォード大学大学院修了。以後、玉川大学文学部教授、国際教育室長、通信教育部長、副学長を歴任し、94(平成6)年より学校法人玉川学園理事長・玉川大学学長・玉川学園学園長。日本私立大学協会理事、文部科学省「大学設置・学校法人審議会(学校法人分科会)」「中央教育審議会(初等中等教育分科会、大学分科会)」委員など公職多数。

小・中・高

学力と心を育む一貫教育

12年をひとつの学校として

玉川学園では、通常の小学校・中学校・高校までをひとつの学校として「一貫教育」を展開、児童・生徒らは1年生(小1)から12年生(高3)と呼ぶ。従来の「6・3・3」制に縛られず、現在は「4・4・4」制で別校舎に分かれて学び、先進的な取り組みとして注目されている。また玉川大学に進学する12年生は、秋学期から大学の講義を履修でき、修得した単位は、大学での単位としても認定されるなど、意欲と能力に応じて幅広い学びと高大連携の機会を提供している。



グローバル時代をリードする「IBクラス」

玉川学園の特色のひとつに国際教育がある。その最先端を象徴するのが、7年生以上の約120人が学ぶ「国際バカロレア(IB)クラス」だ。IBとは、国際的に通用する大学入学資格。生徒は国際バカロレア機構が提供する世界水準のプログラムで学び、世界トップクラスの大学進学に求められる学力と、高い英語力を養っていく。IBクラスではほとんどの授業を英語で行い、グローバル社会で通用する人材の養成を目指している。



は、対応に限界があります」小原学長は「玉川大学では、小学校で英語や理科を教えられる、新たなタイプの教員養成を目指します」と話す。2015年度からスタートする「一例で、国際感覚と指導力のある小・中・高校の英語教員を育成。2014年度からスタートしている音楽や美術と同様に、今後、理科や数学などの科目についても推進していく」という。

「新世代の教員が増えることで、高校生までの基礎学力が高まれば、大学での教育もいっそう充実します。そこがうまく連携できれば、将来をリードする人材の育成もより推進できるでしょう」。

◇ ◇ ◇

玉川学園では創立以来、多彩な能力を育む「全人教育」を理念に掲げている。その思いは時とともに形を変えながら、時代の先駆けとなる充実した教育環境につながっている。今後も新たな取り組みが続き、さらなる発展を期待させるものだ。

文学部 College of Humanities
Department of English Language Education

英語教育学科

高度な英語力と国際感覚を備えた英語教員および社会で活躍できる人材を養成します。

英語教員養成コース

● 中学校・高等学校教諭一種免許状(英語)
*ダブル免許プログラムを利用すれば小学校教諭二種免許状が取得可能(条件あり)
英語指導者養成
国際感覚と確かな指導力を備えた英語教員をめざし、理論と実践を組み合わせた効果的なカリキュラムを通して、即戦力として英語教育の現場に立てる教員の養成を行います。

ELFコミュニケーションコース

● 異文化間コミュニケーション
地域文化研究、国際交流
「国際共通語としての英語」(ELF: English as a Lingua Franca)を駆使して、国際交流機関やグローバル企業をはじめ、広く国際社会で活躍できる人材を養成します。

海外留学プログラム

2年生の秋学期から3年生の春学期にかけて、全員が9カ月間の海外留学を行います。留学先(予定)はイギリス、アメリカ、アイルランドです。留学による効果を最大限得られるよう、留学前後の学びを体系的に組み込んだ総合的な留学プログラムです。

工学部 College of Engineering
Department of Engineering Design

2015年4月設置計画 中 *名称その他の計画に変更が生じることがあります

エンジニアリングデザイン学科

設計力、協働性、現場力を身につけ先進的な「ものづくり」に貢献できる人材を育成

ファブラボ領域

● デジタルファブリケーション技術、設計、効率的な製造方法
3Dプリンターやレーザーカッターなどコンピュータと接続された工作機械を使って、デジタルデータをもとに紙、木材、アクリルなどの素材を加工し成形する技術を学びます。

商品開発・デザイン領域

● 安全な商品づくり、人と環境にやさしい商品開発、企画、デザイン
多様なユーザーニーズに対応した安全な商品づくりの考え方や方法を学びます。使い勝手がよく、人にも環境にもやさしい商品開発力、企画力、デザイン力を養います。

バイオメテックス・メカロボット領域

● メカ、ロボット製作、自然界の模倣
自然界の仕組みを模倣して、工学技術に応用する方法を学びます。人や動物の筋肉の収縮、昆虫の精密な動きなどを応用してロボット製作に取り組みます。